

日交研シリーズ A-632

平成 26 年度研究プロジェクト

「発展段階の異なるニュータウンにおける交通シェアリングの実現可能性」

刊行：2015 年 7 月

## 発展段階の異なるニュータウンにおける交通シェアリングの実現可能性

### Feasibility of Shared-Use Vehicle Systems in Newtowns with Different Development stages

主査：藤原章正（広島大学大学院教授）

Akimasa FUJIWARA

#### 要 旨

本研究は、ニュータウンの成長・縮退段階に応じた郊外ニュータウンにおけるモビリティ施策を検討することを目的とする。具体的には、まず、広島市を対象に、郊外ニュータウンの発展段階を整理し、ニュータウンの特性（都市計画上におけるニュータウンの位置付け、地区内の施設充実度など）に合わせたモビリティ施策を検討する（目的①）。次に、十分な研究成果が積み上げられていない居住地区を対象とした交通シェアリングシステムの成立可能性を検討するため、交通シェアリングへの参加・利用意向を尋ねる選好意識調査を実施し、シェアリング参加意向モデルを構築する（目的②）。最後に、構築したシェアリングへの参加意向モデルを用いて、シェアリングの導入が地区内の買い物需要に及ぼす影響を定量的に評価する（目的③）。

目的①に関して、ニュータウン特性と各種モビリティ施策との関連付けを試み、とりわけ共助に頼った地区内交通シェアリングの対象となるニュータウン候補を選別した。目的②に関して、収集した調査データを用いた集計分析、モデル分析を行い、ニュータウン内での共助意識、シェアリングサービスに対する支払意思額、シェアリングサービスへの参加意向の分析を行い、交通シェアリングの実現可能性について検討を行った。最後に、シェアリングサービス導入に伴う地区内買い物需要の増加について定量的に分析した（目的③）。ニュータウンの発展段階に関する整理について更なる検討の余地はあるものの、目的③は申請時に予定していなかった追加分析であり、概ね順調に研究を進めることができたと考えている。

本研究では、シェアリングの導入効果を見るために需要側にのみ着目したが、シェアリングシステムの導入にあたっては、再配車や車両のメンテナンスなど、供給側の論点も併せて議論する必要がある。また、地域住民主導でシェアリングシステムの導入を考える場合、当該地域の自治体の役割等、マネジメントの側面についても議論を深める必要がある。

キーワード：ニュータウン、パーソナル・モビリティ、共同利用サービス、社会的相互作用、  
買い物目的地選択モデル

Keywords: Newtown, Personal Mobility, Sharing Service, Social Interaction, Shopping  
Destination Choice Model